

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士・フツ博士のかくかくドド相立ててくら

国立市立国立第七小学校

平成29年9月4日 NO.42 (442)

花ちゃん 「かゆい、かゆい。どうしようもなくかゆいわ。」

オー君 「<sup>はな</sup>花ちゃん。どうしたの？。ウルシの<sup>き</sup>木  
にかぶれたの。それとも『力』にでもささ  
れたのかな。<sup>み</sup>見せてごらんよ。あ！  
これは『力』にさされたんだ。」



血をすう場所をきめると、足を固定して、はり(口みたいなもの)をさします。

花ちゃん 「どうして、『力』は<sup>ひと</sup>人をさすの。<sup>わたし</sup>私くやさ  
いから、『力』を<sup>てっていき</sup>徹底的に<sup>しら</sup>調べてみるわ。  
そして、リベンジするわ。オー君も  
<sup>てつた</sup>手伝ってちょうだい！<sup>ねが</sup>お願いね！」

オー君 「はい、きた、OK。」

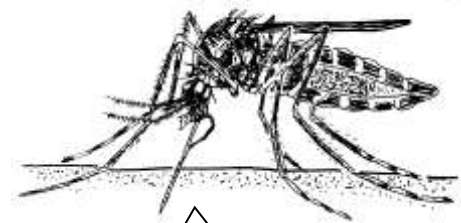
それから、<sup>ふたり</sup>二人は<sup>としよしつ</sup>図書室に行ったり、インター  
ネット<sup>しら</sup>で調べたとさ…



はりをさす時には、下の口びるはさしこまず、ささえる役目をします。

花ちゃん 「<sup>ひと</sup>人の<sup>ち</sup>血をすう『力』はメスだと<sup>か</sup>書いて  
あるわ。どうしてかな。」

オー君 「たまごを<sup>そだ</sup>育てるためだとあるよ。なる  
ほど。たまごを<sup>そだ</sup>育てるために、お母さ  
んの『力』もがんばっているんだな。  
おなかいっぱい<sup>ち</sup>血をすうと、300<sup>こ</sup>個  
くらいのたまごを<sup>そだ</sup>育てられるそうだ。  
すごいな。たいしたもんだな。」



口の先で、毛細血管を探しあてると、血をすい始めます。

花ちゃん 「ところで、『力』は<sup>ち</sup>血をすうだけなの？  
いつも<sup>なに</sup>何をすっているの？オスは…？」

オー君 「ほら、<sup>か</sup>書いてあるよ。<sup>はな</sup>花の<sup>かじゅう</sup>みつや果汁、

草<sup>くさ</sup>のしるもすうってあるよ。」

花ちゃん 「なるほど。それから、『力』はすぐには血<sup>ち</sup>をすうわけではないみたい。口の先<sup>くち さき</sup>で皮<sup>ひ</sup>ふのあちこちをふれて、毛細血管<sup>もうさいけっかん</sup>（とても細い血管<sup>ほそ けっかん</sup>）を探<sup>さが</sup>すらしいわ。」

オー君 「吸<sup>す</sup>い続<sup>つづ</sup>けると、まんぷくになって、体<sup>たい</sup>重<sup>じゅう</sup>が2倍<sup>ばい</sup>にもなるそうだよ。」

花ちゃん 「ところで、『力』をよびよせない方法<sup>ほうほう</sup>はないのかしら。」

オー君 「『力』はにおいに集<sup>あつ</sup>まってくると書<sup>か</sup>いてあるよ。汗<sup>あせ</sup>や動物<sup>どうぶつ</sup>が出<sup>だ</sup>す息<sup>いき</sup>をキャッチするんだな。小<sup>ちい</sup>さな体<sup>からだ</sup>なのに、なかなか大<sup>たい</sup>したものだね。」

花ちゃん 「においがはっきりするためには、湿度<sup>しつど</sup>（しめりけ）も大切<sup>たいせつ</sup>とあるわ。それで、じめじめして、むし暑<sup>あつ</sup>いところに『力』がいるのね。」

オー君 「あ！モンタ博士<sup>はかせ</sup>。ぼくたち『力』について、いろいろと研究<sup>けんきゅう</sup>しちゃった。」

モンタ博士 「聞いていたよ。よく調べたね。では、みなさん。『力』を漢字<sup>かんじ</sup>で書<sup>か</sup>いてごらん。」

花ちゃん 「漢字<sup>かんじ</sup>ですか・・・わかりません。ギブアップです。」

モンタ博士 「『力』の漢字<sup>かんじ</sup>は『蚊<sup>か</sup>』です。文<sup>ぶん</sup>はぶんだ。ぶんぶんと飛<sup>と</sup>んでいるからだね。では、さらに、おもしろいことを教<sup>おし</sup>えてあげよう。『力』にさされたら、そのまま観<sup>かん</sup>察<sup>さつ</sup>するんだ。はりが深く入<sup>ふか</sup>った所<sup>はい</sup>で、うでに力<sup>ちから</sup>をいれるんだ。そうすると、筋肉<sup>きんにく</sup>がしまって、『力』ははりがぬけなくなるぞ。『力』は羽<sup>はね</sup>をバタバタさせて見てて楽しいぞ。」

オー君 「それはおもしろそうだ。ぼくも実験<sup>じっけん</sup>してみる。行<sup>い</sup>ってきまーす。」

花ちゃん 「モンタ博士<sup>はかせ</sup>、その実験<sup>じっけん</sup>をしたら、どうなるの。かゆくならないの。」

モンタ博士 「もちろんかゆいさ。そのうち、オー君<sup>くん</sup>もかゆがって帰<sup>かえ</sup>ってくるよ。」

オー君 「うわあー。かゆい。かゆーい。助<sup>たす</sup>けてくれー！」

## 人の血液型を知っている蚊

蚊に好かれる人とそうでない人がいます。いろいろな要因が考えられますが、血液型もその一つであるといわれています。A、B、O、AB型の人を分けて、蚊を放したところ、O型の人が一番攻撃されたという実験データもあるそうです。蚊が吸血源の動物を発見する手がかりとしては、まず化学物質による誘引があります。その一つが呼吸によって放出される二酸化炭素です。二酸化炭素以外の化学物質では、L乳酸に誘引活性があることが証明されています。L乳酸は人の筋肉で糖から作られ、汗とともに、皮膚の表面に分泌されます。L乳酸の量には人による差があり、蚊に刺されやすいかどうかという個人差の一因にもなっています。誘引された蚊の吸血を刺激する物質としては赤血球に含まれる5'-アデニル酸やアデノシン3リン酸などが知られています。また、女性では、ホルモンの分泌周期により、蚊にさされやすい日とそうでない日がめぐってくるそうです。これらの化学物質を感知する嗅覚器は、主に触角上に分布する感覚子です。また、メスの触角先端部にある2個のか状感覚子は温度受容器で人の体温を感じることもできます。お酒を飲むと蚊に刺されやすいというのは、飲酒によって体温が上がり、二酸化炭素を放出する量も増えて、蚊を誘引するためであると言われています。お酒を飲む時は、時と場所を考えて飲もうというのは、蚊からのメッセージかもしれませんね。なお、耳元でブンブンいうから蚊という字になったかは不明です。